



日大一般入試 N方式について

日大の一般選抜には、次の4つの方式があります。

- A個別方式
- N全学統一方式
- C共通テスト利用方式
- CA共通テスト併用方式



この記事では、N全学統一方式(以下、「N方式」と表記する)の第1期について説明します。N方式第1期の特色は、

- 2/1(水)の試験を受験することで、**最大15併願が可能**。
- 学部間併願のみならず、同一学部内の複数学科への併願も可。
- 日大付属校の生徒は、**入学検定料(学部によって18,000円～60,000円)が無料となる**。 ※調査書発行手数料(300円)は必要。

他大学の試験とは重なりにくい日程であることや、一般選抜が本格化する時期より前に実施されることも、N方式のアピールポイントであると言えます。

N方式への出願は、1/10(3学期始業式)の放課後にコンピューター室に集合して行います。日大のホームページから「2023 一般選抜募集要項」をダウンロードし、出願したい学部学科の指定科目等を調べておいてください。また、**冬季休暇中に日大のマイページへ登録していない人は、必ず事前に済ませておいてください**。

なお、N方式第1期以外の方式への出願については、付属校以外の受験生と同じ扱いとなります。入学検定料の免除や、高校での出願取りまとめはありません。他大学出願の場合と同様に、各自で出願手続を進めてください。 【竹原】

大学入学共通テストについて

毎年、1月中旬の土曜・日曜の2日間に全国で一斉に実施されるテストです。国立大学を志望している人は原則全員が受験します。また、近年では多くの私立大学でも共通テスト利用方式を設定しています。

出題はマーク方式です。出題科目は6教科30科目となっています。以下に配点や試験時間を含めてご紹介します。

教科	科目	試験時間	配点
国語	「国語」	80分	200点
地理歴史	「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」	1科目 60分	1科目 100点
	「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」	2科目 130分	2科目 200点
数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」	70分	100点
	「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」「簿記・会計」「情報関係基礎」	60分	100点
理科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」「地学基礎」	2科目 60分	2科目 100点
	「物理」「化学」「生物」「地学」	1科目 60分 2科目 130分	1科目 100点 2科目 200点
外国語	「英語」	リーディング 80分 リスニング 60分	各100点 計200点
	「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」	80分	200点

受験科目は各大学によってことなりますので、事前の下調べが必要です。 【埜口】

高3生からのアドバイス ～推薦入試編～

日本大学へ付属推薦で進学する予定の生徒や他大学の指定校推薦などの学校推薦型選抜で進学する予定の高3生から、高1、2生へ向けてこれから受験するにあたってのアドバイスを書いてもらいました。

- ☆一番大切なことは継続すること。30分でもいいから必ず毎日勉強するようにする。細かいゴールを作ることも大事で、「勉強したら自由時間にする」などの小さいゴールは「この学部に入りたい」などの大きなゴールよりモチベーションは維持しやすい。(学習院大学出願者)
- ☆ライバルを作ることが大事。運動部に所属していたので帰宅部の人には負けたくなくて努力したことで結果を出せた。自分に合った勉強のスタイルを見つければ成績は一気に伸ばせる!(日大法学部出願者)
- ☆日々の授業をしっかりと聞いていた。それでもわからないことは先生方に必ず聞くようにしていた。(日大薬学部出願者)
- ★「日本史の勉強は高3からでいいや」と思っていたが爆死しました。数学は頑張っていたから結果が出た。勉強は高1からしっかりとやったほうがいいですよ。(日大法学部二部出願者)
- ☆「内部生だから日大に行けるでしょ」と思っていたら現実とは違った。とにかく1か月間必死に勉強した。そしたら下位7割から上位2割まで上がったが、もっと前からコツコツやったほうが絶対いい。(日大芸術学部出願者)
- ☆古文単語、英単語は完璧にすべき。3年から勉強するのではなく、1年から勉強しておくこと。(日大経済学部出願者)
- ★部活を言い訳にして何もしないと間に合わない。特に英語。単語だけでもコツコツやっておくといい。(日大法学部出願者)
- ☆基礎学力到達度テストはダメダメでしたが、日頃の授業や定期テストを頑張れば付属枠で行ける可能性が高いので普段の授業を疎かにするのはやめましょう。(日大経済学部出願者)
- ★どのテストも毎回本気で取り組んだ方がいい。高1からコツコツやっていたから今の自分がある。自分のペースで続けることが大事。(東京理科大学出願者)
- ★基礎学1回目から勉強したほうがいい!英語がマジで重要。最後の基礎学ができればまだ何とかなるから最後まで諦めるな!(日大理工学部出願者)
- ☆錬成テストは絶対手を抜くな。基礎学ダメでも付属特別で行きたいところに行ける可能性がある。でも錬成が良くても評定が悪かったらダメなので定期テストと課題もしっかりやること!(日大理工学部出願者)
- ★学部のパンフレットを見て一瞬でも自分の興味にかすったところをどこと調べあげて、好きになるように頑張ってください。勉強仲間を増やせ!欲望を制御すること!(日本大学短大船橋)
- ★図書館にはためになる本や基礎学の過去問などがあるので最大限に利用したほうがいい。わからないところは積極的に先生に聞きに行った方がいい。自分は提出物をあまり出さなかったことをとても後悔している。逃げ癖を直して、机に向かう習慣を身につけるためにも提出物はちゃんと出した方がいい。(日大法学部出願者)
- ※他にもたくさん書いてもらっているのですが、紙面の都合上掲載できませんでした。載せられなかったものは高1、2の先生方にお渡ししているので見せてもらってください。協力してくれた高3生は、どうもありがとうございました。



【川原】

高2小論文テスト ～志望理由書～

高2では、次の日程で小論文テストを実施します。
 《実施日》1回目 1月11日(水)/2回目 2月15日(水)
 内容としては、高校1年次に行った「ステップ基礎小論文」を踏まえた状態で「志望理由書」に関する書き方を学び、実際に自分で書いたものを提出してもらいます。

1回目のテストの前に事前課題(冬季課題)として「マスターノート」というものが全員に配布されます。冬季休暇中にそのマスターノートを全て埋めておくことが必要となります。さらに、志望理由書を書く上での注意事項などを講師の方が説明して下さる動画が用意されますので、その動画を視聴した後に、本番を迎える形となります。

2回目はリライトを行います。リライトとは講師の方が添削してくれたものを参考にしながら、新たに書き直すことを言います。2回目のテストの前に、1回目に自分が書いた志望理由書が添削を受けた状態で返却されますので、どのようなアドバイスを受けたのか必ず確認しましょう。

「志望理由書」は付属推薦で日本大学に進学する場合にも必要になることがありますので、今回のテストを生かしてしっかりと対策しておくことをお勧めします。また、面接がある場合にはこの志望理由書に書いてある内容に関する質問が出る場合がありますので、決して虚偽の内容は書かないでください。

「志望理由」には「なぜその大学・学部・学科でなければいけないのか」ということを書く必要があります。例えば日本大学の中でも「理工学部の物理学科」と「文理学部の物理学科」があります。同じ物理学科の中で自分が理工学部の物理学科を希望したときに「なぜ文理学部の物理学科でなく理工学部の物理学科を志望したのか」ということを明確に答えられなければいけません。そのためには両方の違いをしっかりと理解しておくことが重要となりますので、今のうちから現時点での志望校の特色を把握しておきましょう。

【福 田】

高1小論文テスト ～ステップ基礎小論文～

高1年も、次の日程で小論文テストを行います。
 《実施日》1回目 1月11日(水)/2回目 2月15日(水)

高1では、「ステップ基礎小論文」を実施します。ステップ基礎小論文では、与えられたテーマについて、自分の意見を論じることが求められます。意見を論じる際は、大まかに、①「賛成・反対」の立場を明確にし、理由を述べる論じ方、②メリット・デメリットを指摘し、その対策を述べる論じ方、③その問題の原因と対策を述べる論じ方、の3つに分けられます。

与えられるテーマによって、どのパターンが論じやすいか異なりますし、それぞれのテーマに対して自分がどのくらい興味を持てるかということでも、小論文をまとめやすいかが変わってきます。今回は出題するテーマを3つほど選出し、終業式前にはお知らせしますので、自分はどのテーマの小論文なら書けるか考えておいてください。テーマの中には総合的な探究の時間で触れたことのある話題もあると思いますが、自分が選んだテーマについて、冬季休暇中にできるだけ知識を集め、自分の意見をまとめておく、当日に焦らずに取り組むことができるはずですよ。

また、そもそも初めて小論文を書く人がほとんどだと思います。そのため、小論文の書き方を学ぶためのワークシートや「書き方ノート」などを、第4回定期テスト後の家庭学習期間や冬季課題で取り組んでもらう予定です。

大学入試では、テーマ型の小論文だけでなく、課題文型の小論文を課す大学もあります。他大学の受験を考えている人は、自分の受験したい大学で、どのタイプの小論文が課されているのか、この機会に調べてみていいかもしれませんね。 【 林 】

生産工学部高大連携授業

「高大連携教育に係る科目等履修制度」というのを知っていますか？現在、日本大学の各学部と付属高校では、高大連携教育という形で提携をしています。本校では2005年からスタートして、法学部、経済学部、生産工学部と毎年連携授業を行なっています。法学部と経済学部については実際に各学部で講義を受け、単位取得を目指します。生産工学部については付属推薦の合格決定後に、生産工学部の教授をお招きして本校の教室を使用して行われます。今回はその生産工学部との高大連携教育についての内容となります。



← 昨年度の様子
 情報リテラシーの講義で新しく学ぶ内容に興味津々



この制度は、生産工学部を学校推薦型選抜や総合型選抜で合格した高3生を対象に、必修科目である「情報リテラシー(2単位)」を入学前に履修し、入学後に単位認定されるというものです。今年度はさらに土木工学科の生徒が履修できる「土木材料学(2単位)」も追加され、選択肢が増えました。この制度のメリットは、合格者としては余裕のある高3の12月～1月という時期を利用して大学の授業を先行して受講できるため、好成績を取りやすいことです。そして本来受講予定となっていた大学1年次にこの授業の時間が空くので、他の授業の予習復習の時間に利用できることなどが挙げられます。

学校型選抜(付属推薦)の合格発表は12月1日(木)ですので、本校の受講者はこの日に決定することになります。授業は12月中旬から開始され、参加予定者は、同学部推薦合格者21名(基礎学選抜7名、付属特別14名)で、それぞれ全15講座の授業を対面授業やweb利用の講座(Zoom, e-Learning)を受講することになります。ぜひ評価Sを目指して頑張ってください。

【屋嘉比】

12月の進路行事

		月
12月2日(金) 追加募集実施学部学科発表	(高3)	日
12月5日(月) 追加募集セレクション申告届提出	(高3)	()
12月7日(水) 追加募集セレクション結果発表	(高3)	()
12月中旬～1月下旬	生産工学部高大連携授業	(高3)

追加募集の流れについては、上記のように基礎学力選抜と同様です。過去2年前までは2年連続で追加募集がありませんでしたが、昨年度は若干欠員が出ている学部が募集をしました。付属推薦の結果次第にはなりますが、もしも対象になった場合はすぐに対応できるように準備を怠らないようにしましょう。

12月15日(木)までに大学入学共通テストの受験票が本校に届きます。高3生の受験予定者には配布するので、その内容を必ず確認して下さい。また、付属推薦等に合格していた場合でも必ず受験をするようにして下さい。付属生以外の受験生は共通テストを受験して大学生になる人も多いので、1月でも自分の学力を維持できるようにしましょう。

【屋嘉比】

次回1月号は、12月21日(水)発行予定です